

よみがえれムジナモ

館林 自生池再生へ500株放流

立館林美術館近くの湿地、入野谷湿田に約500株を放流した。定期的にごみの除去などの手入れをしながら、自生できるか見極める。



ムジナモを放流した木枠を示す会員

守る会が入野谷湿田に

国の絶滅危惧種に指定されている水生食虫植物「ムジナモ」の保護に取り組む、館林ムジナモを守る会（井野口勝則会長）は8日、館林市の県

ムジナモはモウセンゴケ科の水草で、水中に浮遊しながらミジンコやボウフラを捕らえる。かつて多々良沼をはじめ市内各地で自生していたが、戦後の水質悪化で消滅。現在、同会会員らが自宅で栽培し、自生池

の再生を目指している。少年時代に入野谷湿田で野生のムジナモを見たという副会長の荒井孫四郎さん(80)が6月、ムジナモ50株を試験的に放流したところ順調に成長。茎が分裂し、繁殖していること

も確認した。

「長年保護に取り組んできたが、こんなに良く育つ環境は初めて」と荒井さん。餌のミジンコが多いことや、天敵のザリガニがいないことが好条件とみられる。この日は、会員が家

OBが仕事の魅力

介。事前に寄せられた質問にも答え、高校時代にすべきことを助言

ムジナモを提供し、湿地に沈めた保護のための木枠内に数十株ずつ放流した。今後、会員が協力して定期的な手入れと観察を続ける。井野口会長(62)は「将来は木枠をはずし、自生池として復活させたい」と話している。

織細で力強く
新作を20点

みどり・富弘美術館
みどり市東町草木の館 富



読売新聞

ひなたちょう
日向町

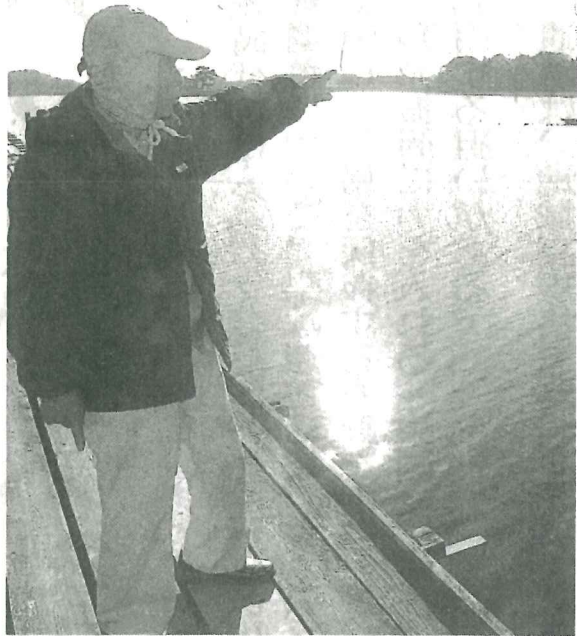
(館林市)

地名考

65

館林市では江戸時代から続く地名は珍しくない。日向町も江戸時代から日向村として存在していた。しかし、名前の由来となると伝説以外にはないようだ。

1917年発行の「群馬県邑楽郡誌」によれば、こはかつて原野だったが、平安時代の万寿2年(1025年)頃、多々良沼の北岸の「日向新田」(現日向町新田)に宝日向という人物が居つき、沼の水質が铸件に適しているとしてタタ



「この辺りから金屎が出る」と多々良沼の場所を示す荒井さん

鑄物師一族めぐり諸説

ラを設置し、釜を作り始めたことにちなむという。

だが、同誌では沼から北に離れた場所に万寿2年より400〜500年前の形式の古墳が多いことを挙げ「村名の起源は万寿2年よりも既に五、六百年前にありしこと明なるべし」と指摘。宝日向が住んだのが由来なら日向新田こそが中心地であるべきなのに「新田」と称すること不審なり」などと疑義を呈している。

ただ、多々良沼からは鑄鉄の際に出る鉞滓「金屎」が出るため、時期は不明ながら「製鉄が行われていたのは確か」(館林市史編さんセンター)という。

日向町で郷土史を研究している荒井孫四郎さん(82)は「あくまで想像」と前置きしたうえで、宝日向は平将門の乱(939年)と関係があるとみる。将門を討ったのは下野国(現栃木県)の豪族、藤原秀郷だが、秀郷は河内国(現大阪府)から鑄物師を招いて武器などを作らせたという。荒井さんは「戦乱が収まり、やがて鑄物師たちが各地に散り、宝日向一族もその一つだったのではないか」と推測している。

荒井さん(左)から説明を受ける生徒



地名の由来を推理

多々良中1年生141人
荒井さん(高)に歴史学ぶ



発見された金糞や材木に見入る生徒

館林

館林多々良中(野村達之校長)で、1年生生徒141人が地域の

井さんの話に耳を傾け

「ではないか」と紹介した。

生徒たちは並べられた金糞や土器などを興味深そつに観察したり、荒井さんに質問をして古里の歴史に理解を深めた。

沼北岸で鋳物作り?

桐生大短期大アート・デザイン

岩崎

人ひと

東京で若手作家7人と合同展

挿絵画家の夢へ一歩

「モニョチタポミチ」のアーティスト名で画家として活動する桐生大短期大学部アート・デザイン学科1年の岩崎ももさん。東京都渋谷区のコンセプトショップ「ギ

ヤラクシー イン ハイファイ」のギャラリーで12月6日まで、ギヤラクシーがインターネットなどで選んだ若手作家7人と「D:R AW(ドロー)展」を開いている。

すかー」とびつくりしましたと振り返る。「大きな展示会は初めて。アーティストからの刺激を受けながら、少しずつ自分の目標に向かって頑張りたい」と目を輝かせた。

このサインのパーカも販売している。岩崎さんは「作品展の呼び掛けをもらったときには、『私でいいんですか?』とびっくりしました」と振り返る。「大きな展示会は初めて。アーティストからの刺激を受けながら、少しずつ自分の目標に向かって頑張りたい」と目を輝かせた。

環境保護などに取り組んでいる荒井孫四郎さん(日向町)から多々良沼の歴史について学んだ。体育館に集合した生徒たちは、スライドやビデオを見ながら、荒井さんの話に耳を傾け、踏輪に由来するのでは

た。荒井さんは「沼の北岸では砂鉄を使った製鉄のくずの金糞が発見されており、鋳物作りが行われていた可能性が高い。多々良の地名は鋳物を生産するに使う大きなふいご、踏輪に由来するのでは